

都道府県名

宮城県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	仙台市立人來田中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	0	6	15
生徒数	59	69	72	0	200	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」の向上をめざした、個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1年生数学（抽象概念の世界が広がることにより、理解度に大きく差が出始める学年であるため）
 2年生数学（昨年度までの生徒の実態から生徒の理解状況に合わせた授業展開について研究するため）
 3年生数学（昨年度までの生徒の実態から生徒の理解状況に合わせた授業展開について研究するため）
 1年生理科（実験や計算を必要とする分野でTT，少人数が効果的だと考えた）
 2年生理科（実験や計算を必要とする分野でTT，少人数が効果的だと考えた）
 3年生理科（実験や計算を必要とする分野でTT，少人数が効果的だと考えた）
 1年生英語（英語の基礎学力を重点的に指導し定着を図るため）
 2年生英語（コミュニケーション能力を身につけさせる授業を充実させるため）
 3年生英語（学習上の質問に答えやすくしきめ細かな学習を行うため）

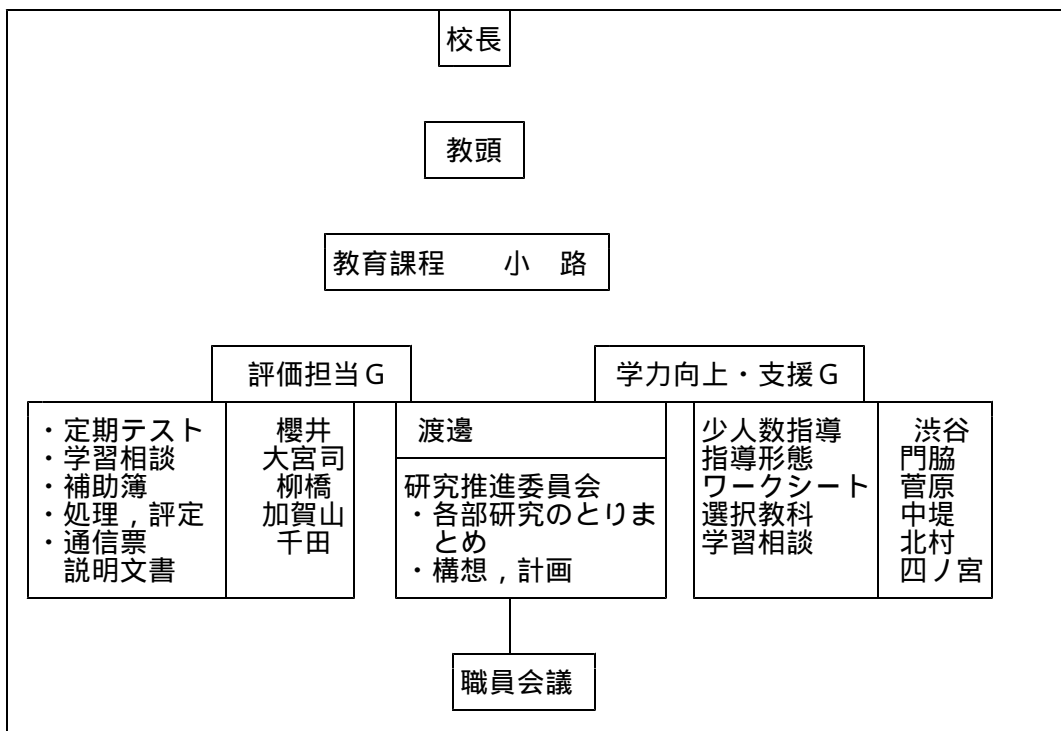
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 少人数指導についての研究構想を作成するのに効果的な指導方法の工夫改善を行う 研究の見通し（仮説） 少人数指導やワークシートなどの教具の開発及びその有効な活用は「確かな学力」の育成に効果があるであろう また学習ガイダンス体制の充実やポートフォリオの活用は学習のサイクルを身につけさせ、「生きる力」の向上に効果があるであろう</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科で有効な学習集団編成と指導方法を研究し、指導上の課題を明確にする。 学習ガイダンス体制を検討・試行し、学習意欲の高揚を図るとともに、体系的で自然な学習の流れプロセスを探る。 学習に効果的な教具、教材（ワークシートなど）を用意し、円滑な学習活動を工夫することにより知識の定着を図る。 <p>*少人数指導については、習熟度別クラス編成やコース分けを基本としているが、次の原則を設けて授業を計画している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習能力によるクラス編成は行わない。 どのクラスやコースにおいても単位時間でのゴールは同じにする。
--------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 少人数指導や教具の活用を年間指導計画に構造的に位置付ける 研究の見通し 平成14年度に同じ(3年間の継続研究とした)</p> <p>研究の内容・方法 研究対象とする特定学年において,単一学級内コース分け,(1学級二分割)や2学級三分割,TTなど14年度に試みた実践の検証を踏まえ,年間の指導計画への位置づけを行い実践,検証を行う。なお,少人数指導においては単純等分割だけでなく,習熟度別学習集団など学習内容や学習活動に応じて工夫する。 また,アンケートや数値データをもとに研究の効果を検証しさらに改善を試みる。また,評価計画を完成し年間計画に盛り込み,指導,評価,ガイダンスの体系化を図る。</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ ・少人数指導カリキュラムを作成するとともに教具,個別シートの工夫改善を行う。 ・ノート作成,家庭学習など学習習慣を定着させるための教育環境的視点からの研究を行う。 ・表現力を向上させるための取組を工夫する。</p> <p>研究の見通し 平成14年度に同じ(3年間の継続研究とした)</p> <p>研究の内容・方法 これまでの実践,検証の結果や校内での諸条件(教員数),年間計画をもとにカリキュラムとして完成する。(評価と補助簿・到達度テスト,学習ガイダンス,少人数指導計画,時間割上での一体化) 個別シート,教材ユニットの充実を図り一斉・少人数/教科・選択/個別学習ガイダンスを通してカリキュラム化していく。</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

アンケートの結果から

- ・少人数を実施した3年生での受けとめは、「とてもよい」72%（内訳：「わかりやすい」55%、「楽しい」23%、「力がついた」21%）であった。
- ・少人数やTTによって授業が活性化し、話し合いの場面、質問する回数、手を上げる回数が増え、授業の中身が濃くなった等の声大きい。
- ・少人数やTTともに、生徒の受けとめは1年であまり変わらないが、53%で、2・3年ほど習熟度の効果・期待が大きいことがわかった。
- ・全体的には少人数指導を行った結果、自分の学習の結果が「よい方向に向かっている」と感じている生徒が80%近くであり、生徒に学習意欲や学力の向上において良好な影響を与えていると考えている。なお、学力測定のためのテストとして昨年度「NRT（全国標準学力検査）」を実施したが、校内事情により第2回目は本年2月に現3年生、6月に新1～3年生を対象として行われる予定である。そのため現段階では対照となるデータはもう少し、時期を待たないと得られない。詳しい数値データによる分析は次年度はじめに行いたい。

2. 今後の課題

本校は1学年2クラスという小規模校であり、教員数も少なくほとんどの教科（理、数、英以外）で全学年の授業を1人で指導を担当している。したがって、少人数指導など特殊な学習形態での授業は行いにくい。次年度は、何とか工夫して、なるべく多くの教員や教科が少人数指導などにたずさわれるようにしたい。

少人数指導の授業編成を行う際に、生徒が設置された各コースの内容を、理解的確なコース選択を行わない場合も多く、教師側の意図に沿わない学習集団編成になる場合も多い。次年度は、事前のガイダンス等をより時間をかけて行いよりよいコース編成ができるよう工夫していきたい。

少人数クラス間での評価、評定の整合について（クラス間で異なったワークシートを用いる場合や授業の展開が異なる場合のチェックの方法など）判断が難しいときがあり、適切で簡潔な方法を思案中である。

学力向上に向けた取組が、どの程度有効に作用したかを客観的に探る方法を見つけることが、課題となっている。現在、定期考査やNRT等の諸検査の推移やアンケート結果などが主な検証の材料であるが、その合理性や妥当性などについてさらなる検討が求められる。

学力把握のための学校としての取組

アンケートによる実態調査
全校生徒を対象にアンケートを実施し次のことがらを調査した。

- ・少人数指導やTTなど学力向上に向けた取組について
- ・生徒の学習に対する意識や各教科に対する意識あるいは学習意欲
- ・成績、評価等に対することがら

NRT学力調査
NRTを実施し本校生徒の集団としての学力や生徒個々の学力の推移を調査した。

校内テストによる学力調査
校内定期テスト（中間テスト、期末テスト、実力テスト）で生徒個々の得点の推移や教科ごとの学力を調査している

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

< 研究会の開催実績及び予定 >

- 1 開催実績
 - 「人來田中学校授業研究会」
 - 日時 平成16年5月21日(水) 13時30分～16時30分
 - 場所 仙台市立人來田中学校
 - 対象 学力向上フロンティア校, 近隣校, 本校職員
 - 目的 数学等少人数指導を実施している教科の授業提供を行い, 学力向上に向けた本校の取組を紹介し, 情報提供を行うとともに指導主事及び, 参会者からの指導助言を受け一層充実した研究活動を目指す。
 - 「人來田中学校校内研修会(教育講演会)」
 - (テーマ) 「認知心理学から見た学習のメカニズム」 講師 西林克彦 宮教大)
 - 日時 平成15年7月29日(火) 9:00～11:00
 - 場所 仙台市立人來田中学校(会議室)
 - 対象 本校職員
 - 目的 「学習」の意味や科学的見地からの知識獲得, 学習意欲の高揚のメカニズムを学び, 本校における今後の研究活動をより効果的に行い学力向上を一層推進する。
 - 「学校訪問(指導案事前検討会)」
 - 日時 平成15年11月11日(火) 14:00～16:30
 - 場所 仙台市立人來田中学校
 - 対象 指導主事, 本校職員
 - 目的 下記「授業研究会」での研究授業の内容や指導案, 本校の取組について, 指導主事の指導助言をもとに検討し改善を図る。
 - 「授業研究中間発表会」
 - 日時 平成15年11月26日(水)
 - 場所 仙台市立人來田中学校
 - 対象 指導主事, 本校職員, フロンティア校, 近隣校, 名取市研究主任会
 - 目的 数学, 理科等少人数指導を実施している教科の授業提供を行い, 学力向上に向けた本校の取組を紹介し, 情報提供を行うとともに指導主事を始め, 参加各位のご指導を受け一層充実した研究活動を目指す。
- 2 開催予定
 - 「学校公開(学力向上に向けた取組)」
 - 日時 平成16年11月25日(木)
 - 場所 仙台市立人來田中学校
 - 対象 指導主事, 本校職員, 小学校, 中学校
 - 目的 小人数指導をはじめとする本校での学力向上に向けた様々な取組を紹介し学力向上に向けた本校の取組を紹介し, 研究最終年度としての情報提供を行うとともに指導主事を始め, 参加各位のご指導を受け一層充実した研究活動を目指す。
- 3 フロンティアティーチャーとしての研究の成果普及活動実績又は予定
 - フロンティアティーチャーとしての活動実績
 - 現在のところ本校においてはフロンティアティーチャーは活動の準備をしている段階であり, 他校への普及活動はまだ行っていない。次年度は, 教育センター学力向上支援班や他のフロンティア校との連携のもとに近隣校その他の学校に積極的に活動を展開したいと考えている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無